



TITLE:

膀胱異物の2例

AUTHOR(S):

西沢, 信二

---

CITATION:

西沢, 信二. 膀胱異物の2例. 泌尿器科紀要 1956, 2(3): 164-166

ISSUE DATE:

1956-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111119>

RIGHT:

## 膀胱異物の 2 例

京都大学医学部泌尿器科教室 (主任 稲田教授)

姫路赤十字病院皮膚科泌尿器科

西 沢 信 二

## 2 Cases of Foreign Bodies in the Bladder

Shinji NISHIZAWA

*From the Department of Urology, Faculty of Medicine, Kyoto University**(Director: Prof. T. Inada)**From the Department of Dermatology and Urology, Himeji Red Cross Hospital*

Recently I had 2 cases of foreign bodies in the bladder and reported.

1. First case was really unusual case. It was a stick of grass (9×0.3cm) that seemed to be inserted into bladder through the urethra for fun by his brother about 12 years ago. I took it out with suprapubic cystotomy.

2. The contents of next case was candle. I could take it out almost as same as it's original form by young's operating cystoscope.

本邦に於ける膀胱異物並びに異物結石に関する症例報告は既に 400 例に近く、又其の詳細な統計的観察も多数見られ、異物の種類、原因、侵入経路等に就いては殆んど知悉せられた観が無いでもない。私の経験した症例もガラス棒と西洋蠟燭を内容とする 2 症例で統計的資料ともなればと思ひこゝに報告する。

## 自家症例

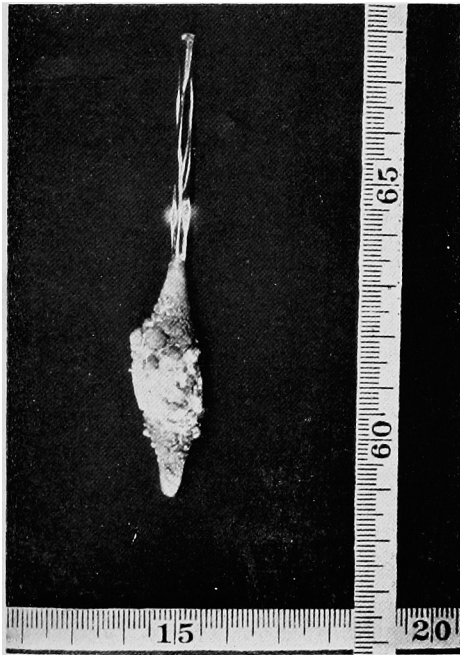
**第 1 例：**○川○. 男. 24 才. 農業.**初診：**昭和 25 年 3 月 8 日**主訴：**頻尿及終末排尿痛.**家族歴及既往歴：**特記すべきものなく、性病否定す.**現病歴：**1 週間程前より急に尿意頻度を覚え地方の保健所を訪ねたところ急性膀胱炎の診断を受け治療を受けたが症状軽快せず当科へ送られた.**現症：**体格大、栄養佳良、体温 36.7°C にて他器官に異常無く陰嚢内容も正常、膀胱部に軽度の圧痛あり、直腸内指診により前立腺部に圧痛著明。尿は黄褐色、高度に濁濁し、酸性にして、蛋白(+), 鏡検上白血球

(+)、赤血球 (無数)、塩類 (+).

**膀胱鏡検査：**膀胱容量 200cc、膀胱粘膜は一般に正常なるも、左側尿管口周囲より其の外側上方に亘り発赤腫脹が強く、其の前方外側寄りに内尿道口縁に一部隠れた指頭大の結石らしきものを認めた.**レントゲン所見：**膀胱部単純撮影により膀胱の左下方に示指頭大の結石様陰影と其の中央部を縦に貫く長さ 9cm、巾 3mm の棒状の陰影を認め単なる膀胱結石ではなく何らかの異物を核として生じた異物結石なりと診断した (第 1 図). ここで患者に異物と覚しきものの侵入経路に就いて詳しく問診を行つたところ、患者が 12 才頃 (初診時より 12 年前) 兄から細いガラス棒を尿道内に挿入され激しい疼痛を覚えた記憶があり恐らく其の時誤つて膀胱内迄入つたのであろうとの事であつた.



第1図



第2図

**手術所見並びに異物：**入院の上、型の如く膀胱高位切開にて容易に長さ 9cm, 巾 3mm のガラス棒の一端に附着した結石を取り出し得たが結石の附着しない一端は約 2cm が膀胱壁内に刺入していた(第2図)。

**経過：**1 週後抜糸, 留置カテーテル拔去, 術後 12 日目に退院した。

**第2例：**吉○勝○ 男 24才 会社員

**初診：**昭和30年9月15日

**主訴：**頻尿及排尿痛

**家族歴及既往歴：**共に特記すべきものなし。

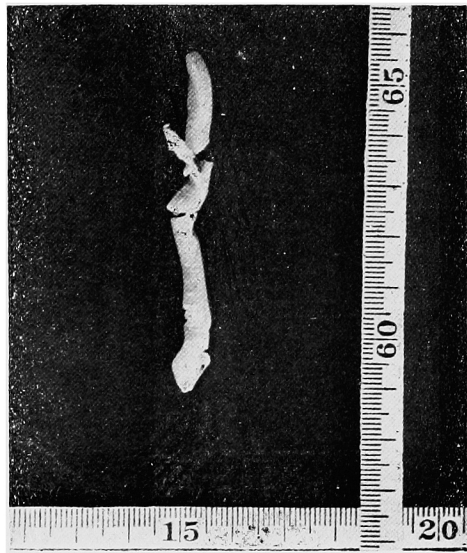
**現病歴：**昨日午前5時頃陰茎に疼痛を覚えて眼を覚したところ, 同居の友人2名が患者の尿道内に異物(後程友人より聞き蠟燭と判明した)を挿入しているのに気が付き, 未だ尿道内に固く触れる異物を急ぎ取り出そうと試みたが間もなく深部に進入して触れ得なくなつたと。同日昼前頃より排尿の前後に痛みを覚え排尿回数も増え昨夜は排尿のため4回起床した。

**現症：**体格小, 栄養中等, 膀胱部に軽度の圧痛ある他は全く正常。尿は黄褐色に濁濁し, 蛋白(+), 沈渣に白血球(多数), 赤血球(小数), 双球菌(++)。

**レントゲン所見：**膀胱部単純撮影を行うも異物様陰影を見ず。

**膀胱鏡所見：**膀胱粘膜は全般に充血腫脹し頂部空泡の左側に白色蠟様異物が3の字状に浮遊するを認めた。

**異物除去及異物：**ヤング氏異物用膀胱鏡を試みに



第3図

使用したところ、幸にも異物の一端を挟み得、大し 7cm、太さ 5mm の西洋蠟燭であつた (第3図)。  
た苦痛もなく略々原型の儘取り出し得た。異物は長さ

## 考 按

膀胱異物の種類に関しては、手近の文献を見ても蠟燭及蠟燭物質、植物の根、茎、葉、ゴム管及ゴム製品、婦人装身具、鉛筆、寒暖計、爪楊枝、チューインガム、其の他手術時のガーゼ片、縫合糸、或は戦傷による弾片、又外傷時の骨折片等と数多いが、第2例の如き蠟燭は其の中でも最も多く報告され全体の約 25% を占めている。之に反し第1例のガラス棒に関しては、今迄に体温計の10例を石川氏、吉田氏の2例の棒状寒暖計の報告を除いては未だ其の報告を見ない。侵入動機に関しては多分に自慰による動機を疑い得るが問診したところでは両者共他人の悪戯によるものであつた。膀胱内停留期間は長短種々であるが、第1例の如く12年もの長期間全く無症状に経過したのは少い。異物除去法は文献によれば、観血的方法と非観血的方法が略々相半ばし自然排出も数例認められる。第1例は観血的に膀胱高位切開によつて除去したが、第2例は諸家の報告をみれば蠟燭及蠟燭物質の殆んどに、キシロール、ベンジン等溶媒による溶解除去が行われているが本症例に於いては幸にも蠟燭の一端を異物用膀胱鏡にて挟み得た為殆んど原型の儘取り出す事が出来た。

## 結 語

1) 私は最近5ヶ年間にガラス棒及び西洋蠟燭を内容とする膀胱異物の各1例を経験し報告した。

2) 第1例は12年前兄の悪戯により膀胱内に挿入されたと思われるガラス棒を中心として生じた膀胱異物結石の稀有なる1例である。

3) 第2例は西洋蠟燭を内容とするが、幸にもヤング氏異物用膀胱鏡により殆んど原型の儘取り出し得た。

(本症例の内、第1例に就いては、第11回近畿日赤医薬学研究会の席上、興味ある尿路結石の2例と題して報告した。)

京都大学泌尿器科教室稲田教授の御校閲を深謝す。

## 参 考 文 献

- 1) 吉田・三浦：臨皮泌，3：295，昭 25.
- 2) 日東寺：日泌尿会誌，42：257，昭 26.
- 3) 後藤・新谷：皮紀要，49：163，昭28.
- 4) 中曾根・高田：臨皮泌，6：8，昭 27.
- 5) 土屋：手術，4：215，昭 25.